

[水田作部門]

10. 岡山県における QoI 剤に対する薬剤耐性イネいもち病菌の発生状況

[要約]

ストロビルリン系殺菌剤(QoI 剤)に耐性のイネいもち病菌が県内の広い地域に分布している状況が確認された。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室 野菜花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

2012 年、他県においてイネいもち病の主要な防除薬剤のストロビルリン系殺菌剤〔QoI (キューオーアイ) 剤〕に対する耐性菌が確認され、本県においても耐性菌の発生による防除効果の低下が懸念される。そこで、県内のイネいもち病菌について、QoI 剤に対する耐性菌の発生状況を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. QoI 剤を育苗箱施用したにもかかわらず葉いもちが多発した圃場において、QoI 剤に対する耐性菌の発生が確認される(データ省略)。
2. 岡山県病害虫防除所の発生予察巡回調査地点における穂いもちから採集したイもち病菌を検定した結果、耐性菌は 30 地点の内 8 地点で確認される(図 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. QoI 剤の防除効果の低下が確認されない場合でも QoI 剤の使用は年 1 回までとする。
2. 採種圃場では QoI 剤を使用しない。
3. QoI 剤を使用してもいもち病の発生が目立つ場合は、直ちに他系統の薬剤を用いて防除する。
4. 上記の他、QoI 剤の使用に当たっては、下記の「耐性菌対策ガイドライン」(日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会 2008 年 4 月 29 日公表)を参照する。

アドレス http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/resistance/ine_QoI.pdf (2014 年 6 月現在)

[具体的データ]

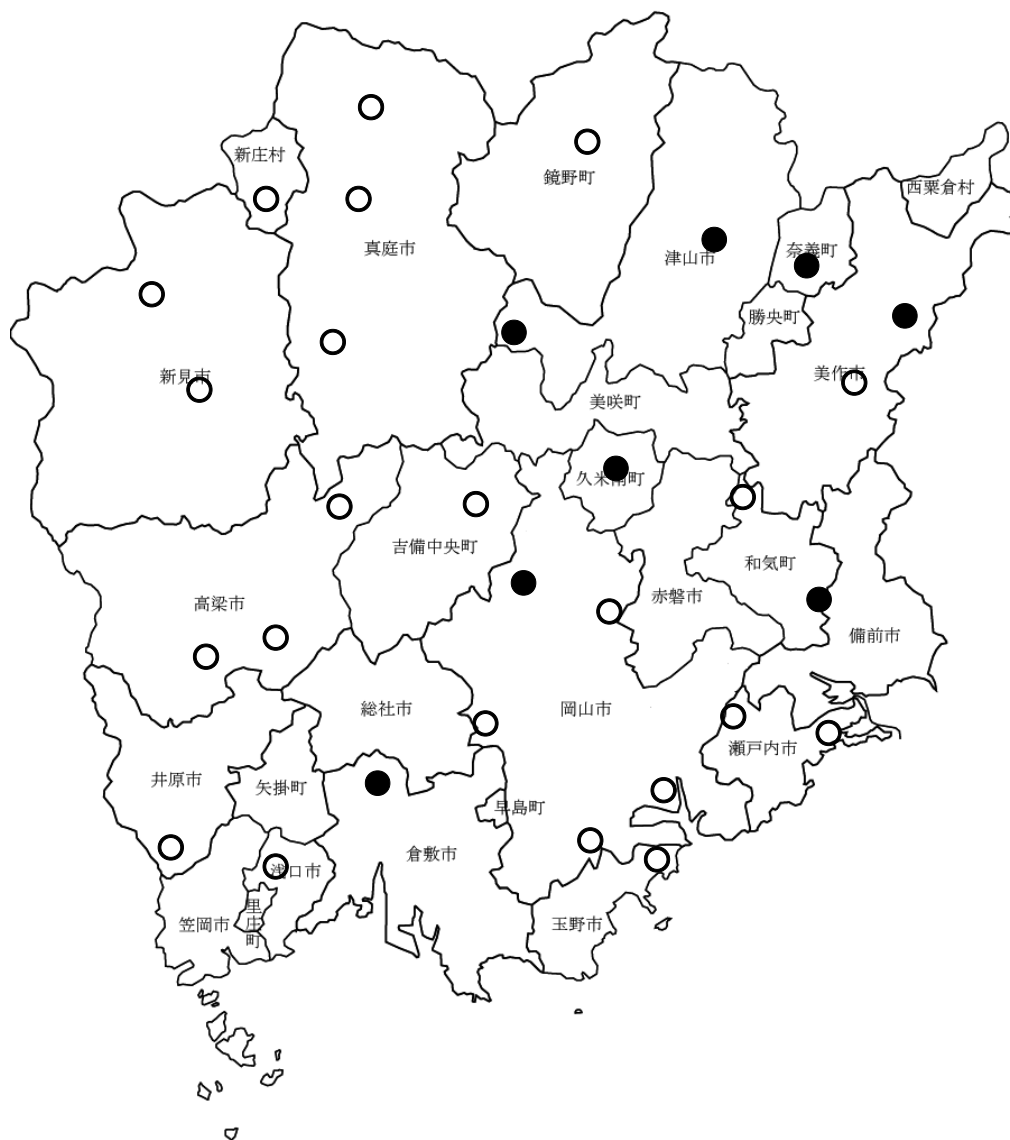


図1 岡山県内の QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生状況 (2013 年)

○：耐性菌が確認されなかった地点

●：耐性菌が確認された地点

注) 耐性菌の判定は生物検定の結果を反映する寒天平板希釈法及び遺伝子検定で行った

[その他]

研究課題名：イネいもち病における QoI 剤耐性菌の発生実態の解明

予算区分：県単（現地緊急課題）

研究期間：2013 年度

研究担当者：畔柳泰典、井上幸次、森本泰史